

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	○	○
		商店街（代表者）	・ファッション業界において、今年の秋のトレンドはシャープでベーシックな路線となることがはっきりしており、より幅広い客層に受け入れられることが見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・一次産業の好調と公共工事の増加の影響で、当面は好調を維持する。
		コンビニ（エリア担当）	・以前と比較して、客の動きは特売商品に特化したものではなくなっている。新商品など商品の価値を基準とした購買動向が強くなっており、今後についても良くなる。
		家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送の開始に伴い、薄型テレビの需要が高まることが期待される。
		乗用車販売店（営業担当）	・客の来店はあまり伸びていないが、販売量に期待が持てる。
		住関連専門店（従業員）	・今夏は猛暑が見込まれていることから、夏物商品の動きが良くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・客の購買力がやや戻ってきたようであり、今後についても期待できる。特に、高血圧、メタボリックシンドローム対策品が動きそうだ。
	観光型ホテル（経営者）	・団体旅行から、個人旅行やファミリー旅行へと旅行形態の変化がみられることから、入込客数の伸びはあまり期待できないが、消費単価の上昇が引き続き見込める。また台湾やシンガポールからの旅行客がじわじわと増加してきている。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・7月は参議院選挙の影響で観光客が減少する懸念もあるが、秋までの予約状況は順調に推移している。	
	変わらない	商店街（代表者）	・景気が良いのは一部の企業にとどまっており、中小企業、零細企業が中心の地方都市の個人所得は増加していないのが現実である。そのような中で年金問題、定率減税の廃止などがあり、一般消費者の消費を高揚させるような要素がない。
		商店街（代表者）	・客はまだ様子を見ながら買物をしている状況であり、今後についても変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・定価品の売上が厳しい時はセール品の売上増加に勢いがつくものだが、今年はセールの勢いも思ったほどではない。客の財布のひもがなかなか緩まないため、夏商戦同様、秋商戦も厳しい展開になりそうである。
		スーパー（店長）	・食品は毎月、前年比が回復している傾向にあるが、衣料品は気温状況に影響を受けて予想が立てにくい営業状況にある。
スーパー（企画担当）		・地域によって差はあるが、札幌圏における価格競争は激しさが収まっていない。客の買物行動も依然として厳しいものがある。原油価格も再び上昇しており、原材料価格への影響も含め予断を許さない状況にある。	
スーパー（役員）		・北海道の場合、夏場に入ると天候や気温により、来客数や客単価の数値が大きく変わることがあるが、現在の状況では景況感によって売上が大きく変わるとは考えづらい。	
コンビニ（エリア担当）	・比較的価格の高いビールが順調に売れており、消費が安定してきている。		
乗用車販売店（従業員）	・前年と比べても売上が厳しく、景気の良い話がない。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・今後も石油製品の価格高騰が予想されており、より一層、客の節約気運が高まる。		
高級レストラン（スタッフ）	・観光シーズンに入ったが、観光客が増加する兆しがない。		
一般レストラン（スタッフ）	・7月の参議院選挙のほか、定率減税の廃止、石油製品の値上げ、年金問題等、消費が落ち込む要素が多すぎる。		
スナック（経営者）	・飲食業は全く見通しが持てない状況にあり、判断がつかない。悪くなる可能性の方が強いのかもかもしれないが、どう変わっていくのか先が全く見えない。		
旅行代理店（従業員）	・団塊世代が退職後に一番やりたいことのトップに旅行が挙げられているが、北海道においては、必ずしも旅行者が増加するとは限らない。また夏のボーナスが良かったと報じられているが、現実にはそのような手ごたえも感じられない。		

	タクシー運転手	・特別急ぎの用件でない場合は、電車やバスを利用するとの考え方が浸透している。また天候による需要も一過性によるもので、根本的な需要拡大は期待できない。
	観光名所（役員）	・個人での来客数がやや増加しているが、修学旅行等の団体客の予約が減っている。レストランでの婚礼等の大口の宴会予約も少なくなっており、今後については厳しいまま変わらない。
	その他レジャー施設（職員）	・前年と比較した場合の利用者数の増加傾向は変わらない。
	美容室（経営者）	・地方税の増額に伴う健康保険料の支払の増加により、しばらくは購買意欲が損なわれるため、当面は売上の増加を望めそうにもない。
	その他サービスの動向を把握できる者	・7月から観光の最盛期に入るが、この2か月間の入込状況から良くなる要素は見当たらない。
	設計事務所（職員）	・参議院選挙で争点に加わった地域医療は北海道での深刻な状況をあぶり出している。また食肉加工偽装問題も北海道の景気回復に大きな影を落とし始めている。医療機関では施設改築よりも医師確保に急いでおり、食料品製造業では食に関する北海道イメージの低下を懸念しており、共に建設投資に対して慎重になっている。
	住宅販売会社（従業員）	・戸建専門メーカーとしては、市場が非常に狭まっている状況が続いている。客はマンション志向が強く、マンション需要との差が埋まる気配もなく、今後も状況は変わらない。
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・今月から住民税が大幅に上がっていることの影響が懸念される。今年は半袖を中心に夏物商品の動きが良いが、税金の増額のため、今後買い控えが発生する可能性がある。
	衣料品専門店（店長）	・今年の地方税の実質的な増額で、消費者は驚いており、買物どころではないと考えているようだ。
	家電量販店（地区統括部長）	・昨年は地上デジタル放送開始の影響で、薄型テレビの売上は年末まで順調に伸びていたが、今年はそのような特殊要因がないため、全体として売上は鈍化する。
	旅行代理店（従業員）	・住民税の増額により、消費費の財布のひもが固くなるのが必至の状況である。
悪くなる	タクシー運転手	・規制緩和以降、札幌では1,500台以上タクシーが増えている。利用客が減っている中で、増車の傾向はまだまだ続きそうであり、1台当たりの売上の減少が更に拡大する。
企業動向関連	良くなる	—
	やや良くなる	—
	家具製造業（経営者）	・百貨店を始めとする小売業の一部がリビン部門に力を入れ始めたことから、今後については期待できる。
	通信業（営業担当）	・ここ数か月、景況感はしばらく横ばいで推移するとみていたが、第1四半期を終える段階で業績が堅調になっている。今年度後半の需要に関しても、好調さを感じる新規案件、周辺状況が増えている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・不動産及び商業店舗の開発が盛んであり、管内での投資が多少上向いてきている。
変わらない	食料品製造業（団体役員）	・食品製造業の受注量は連続して減少しており、景気回復の実感は乏しい。雇用環境も改善していない。地場企業の倒産も増加しており、今後についても厳しいまま変わらない。
	金属製品製造業（経営者）	・灯油の高騰、オール電化への変化等もあり、燃料を備蓄する製品を作っている会社では、この先も活発な経済状況とはならない。
	輸送業（支店長）	・8月下旬から農産物等の出荷が始まり、本州向けの物流という面では活発化するが、建築基準法改正の影響もあり、プラスマイナスが相殺されるため好転はしない。
	輸送業（営業担当）	・農作物の作況は良く、一番刈り牧草も順調のようであり、秋に期待が持てる。
	金融業（企画担当）	・原材料価格が一段と上昇しており、企業収益は厳しさが続く。建設関連は夏の最盛期であるが公共投資の削減などで低迷する。観光関連は旭山動物園効果と北海道洞爺湖サミット開催効果で堅調に推移する。個人消費は厳しい所得環境に変わりなく弱含みで推移する。また食肉加工偽装問題で、道産品の安心、安全が揺らいでおり、景気へのマイナス影響が懸念される。
	司法書士	・8月は個人住宅の建築、土地取引が活発になることが見込まれるが、現在の経済状況から、大きな上昇は期待できない。

		<p>その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）</p> <p>その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）</p>	<p>・建設関連では一過性の需要はあるかもしれないが、短期的なものを中心であり、大きな変化は生じない。</p> <p>・少なくとも9月までは現状のまま、受注量が減少した状態で推移する。10月以降の工事量の復活に期待したいが、良い条件は見いだせない。</p>
	やや悪くなる	○	○
	悪くなる	—	—
雇用 関連	良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・企業が予定採用数を充足できない状況が続くことが見込まれ、採用活動が長期化する。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・前年比の動きで判断するとマイナス幅は縮小傾向にある。プラスに転じるかどうかはわからないが、今年2～3月で底を打ったのではないかと感じている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業における求人ニーズは今後も増加傾向となる。派遣ニーズも事務系、販売系とも堅調に推移する。求職ニーズも変わらないものとみられるが、求人、派遣ニーズとも求められるスキルは高く、安易に仕事に就くことはできず、相変わらず企業ニーズと求職ニーズのミスマッチが続く。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加しているが、パートの占める割合は依然として高い状態である。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は2か月連続で前年を上回っているが、正社員求人は増加していない。
	職業安定所（職員）	・求人、求職とも減少傾向で推移しており、大きな変化はみられない。	
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・夏の天候次第という面もあるが、今のところ求人数が伸びて行く要素が見当たらない。
悪くなる	—	—	